

議会
憲法

辺野古新基地建設、安倍改憲ノイ

沖繩大学
客員教授

真栄里氏が講演

島根県憲法会議は8月24日、松江市で総会を



開きました。「辺野古新基地NOと沖縄からの憲法の平和主義の叫び」県民投票、参院選に託した願い」をテーマに、沖繩大学客員教授の真栄里泰山氏が講演しました。(写真)

真栄里氏は、今年2月の「県民投票」で圧倒的多数の県民が辺野古新基地建設反対の意思を示し、7月の参院選沖繩選挙区では基地建設反対を掲げた野党統一候補の高良(たから)鉄美氏(元

琉球大学名誉教授)が勝利したことを紹介。安倍政権が民意に背いて基地建設を強行し、改憲へと暴走するも「反戦平和の憲法の命をよみがえらせなければならぬ」と強調しました。

「沖繩可否の会」の真栄里勝枝さんが舞台朗読「学童疎開船対馬丸」を披露しました。

総会では、池場哲哉事務局長が「安倍9条改憲NO!3千万署名」の県内30万筆目標の達成、憲法改悪阻止の地域組織づくりの促進などの2019年度活動方針案を提案し、採択されました。

地域の話

アツク

だより(より)

安 来 国保税引き下げを 原田議員が要求

原田議員「2018年10月1日の国保税滞納者は654世帯、滞納割合は13%だ。高い国保税は引き下げて、安心して医療を受けられるように負担を軽減すべき。」

市民生活部長「加入者の平均年齢は58.4%、年齢割合は65〜74歳までの高齢者が57%、所得階層は200万円未満の世帯が約75%を占めている。国保税を引き下げる取り組みとしては、①データヘルズ計画に基づく保健指導②財政調整基金の活用③国の財政支援を求める。(原田きよ子の議会

出 雲 土砂災害対策を 田食議員が要求

田食議員「国、県において調査・指定をすすめている「土砂災害特別警戒区域」(通称・レッドゾーン)は防災上、放置・無視できず重要な問題だ。本町での指定時期や関係住民への周知の日程などの計画はどうなっているのか。」

町長「今夏から説明会を計画している。まずは、早期の避難につなげ、人命を守ることを念頭に、地域の状況を把握することにしている。」

田食議員「該当地の住宅、商工業用地、農業施設等の補強工事や移転など

への特段の支援が必要だ。町長「住宅補強支援事業、宅地造成事業などを見据え、生命・財産を守る。」

出 雲 今年10月から新たな 子ども医療費助成

今年10月から、新たな「子ども医療費助成制度」(新事業)がスタートします。助成対象は小中学生。非課税世帯の子どものは通院・薬局等、入院すべて無料(14000人)②児童手当の支給対象で上記以外の子どものは入院にかかる負担がすべて無料(1万3000人)。7月に制度の周知と申請案内があり、8月から受給資格証の申請受付が開始される予定です。(ごとう由美の市議会報告)より)

この結果は痛恨の極みです。安倍暴走政治のもとで、今こそ国民の暮らしを守るが、中国地方で主に活動する国会議員がいなくなってしまうこの事態が本心に申し訳なく、一刻も早く取り返していくためのその責任を自覚し、ただちに再スタートを踏み出していきます。まず全体の結果とし

これから常にも現場から

大激戦の参議院選挙は7月22日午前7時40分、比例代表区で共産党最後の議席が確定

熱血・弁護士 仁比 参議院議員 Hotレポート

し、私は残念ながら届きませんでした。大阪選挙区で辰巳コータローさんの議席も失いました。今回は競り勝てませんでした。比例5議席まであと17万票余り。最終盤猛然と追い上げた私たちの奮闘は、埼玉で21年ぶりの伊藤岳さん、全国32の1人区のうち沖繩、愛媛、大分を含む10選挙区でつかみ取った野党共闘の大勝利に大きく貢献したと思います。

「安倍内閣のもとではくらしも民主主義も本当に危うい」選挙戦を通じて、国民のみなきんのみなきる思いをたくさんの要求とともに受けとめてきました。野党共闘は鍛えられ、いっそう深化しています。その結果、安倍総理が憲法9条を狙って改憲発議を押し通そうとしても必要な3分の2の議席を割り込ませることができたことは、これからの国会の様相を変えるでしょう。消費税増税を強行しようとする安倍政権はいっそう追い詰められることになるでしょう。

次は解散総選挙です。いつたん国会から離れることになりませんが、「絶対にあきらめない」それが本場の民主主義の政治をつくる何より一番の道筋です。SNSで新しく広がったつながりも力に、「安倍政治NO!暮らしに希望を」と全力で訴えた公約実現に向けて、みなさんと力を合わせ、大きな運動で国会を包囲していく先頭に立ちたいと思います。これからも、つねに現場から、憲法を生かす政治へ。頑張ります!(7月28日付)

議席奪還へ、直ちに再スタート

参議院選挙が終わりました。何より中国地方にとつての宝、仁比聡平さんの議席を失ってしまったことが本心に悔

しくてなりません。私自身が直接ともに活動してきたこの6年間の奮闘ぶりを振り返っても、政権・与党がもつとも恐れる議員の一人であり、絶対に欠かさずことのできない存在であったと肌身で痛感してきただけに、この結果は痛恨の極みです。安倍暴走政治のもとで、今こそ国民の暮らしを守るが、中国地方で主に活動する国会議員がいなくなってしまうこの事態が本心に申し訳なく、一刻も早く取り返していくためのその責任を自覚し、ただちに再スタートを踏み出していきます。まず全体の結果とし

て、改憲勢力の「3分の2」を阻止したこと、1人区での10選挙区で野党統一候補が勝利したこと、私たちの比例票は17年総選挙比で前進させたことなどをしっかりと確信に。さらに、中国地方でも山陰で中林よし子さんが全国でも大きな注目となる野党統一候補としてがんばりぬかれ、両県の党組織が全力で支え新しい挑戦にも大いにとりくまれたこと、広島で高見あつみさんが難しい案件の中でも果敢にたたかひぬかれたこと、住寄さとみさんが党を語る先頭に立って元気いっぱい中国地方一円を駆けぬかれたこと、何より党員・後援会員の皆さんの猛暑と大雨に負け

ずの大奮闘―そのすべてのがんばりの結果として、中国地方すべての県が17年比で比例得票率を前進させることができました。そのことは来たるべき総選挙で議席奪還を勝ち取る上での重要な足がかりとなるに違いありません。まもなく74回目の8月6日をむかえます。この選挙の最終盤、ある被爆者の方が炎天下の中でマイクを握ってくださいました。「安倍総理は私たちの目の前で『核兵器禁止条約に署名はしない』と言った。これが被爆国の総理か!共産党にがんばってもらおうしかない。何としてもこの期待にこたえ、必ず議席奪還をたたさねば。(8月1日付)

前衆議院議員
大平よしのぶ

アツク
やさしく

